

町民参加でエコの花を開かせる・・・

長野県下伊那郡高森町教育委員会

学校教育係長 松村和憲



高森町では、町民参加のまちづくりを以前から進めていました。この事業を通じて、これからの公共施設の改修や改築などを含め、身近な住環境から環境問題を考え、さらなる町民参加のまちづくりを進めていくため、モデル校以外の町内の高森北小学校、高森中学校の校長先生始め先生方や議会・役場職員も含め多くの地域の住民の方にも参加していただくことをお願いし、100名余の参加者による検討会が実施できました。さらに、その検討会のワークショップをサポートするボランティアスタッフを役場職員から募集したところ、総務・環境・町民・出先機関など多くの部署の職員からの応募があり、町民の皆さんとともに学んだことを町民参加や環境施策としてフィードバックさせることにも役立つ種ができたと思います。

このような町全体で検討会に取り組むことで蒔かれた種が、現在、町の様々なところで芽を出し始めていると思います。例えば、検討会終了後の今年の夏は、エコ改修検討会に参加した環境所管課の職員が、役場庁舎内の暑さを和らげるために、農業用の寒冷紗を使って自作の日よけを設置しました。今年は役場庁舎や教育委員会事務局で緑のカーテンなどを設置する動きも見られます。夏の葦簀（よしず）や外断熱の効果についても話題になるようになりました。今までも葦簀を当たり前のように使ってきましたが、検討会での実験や講義によってその効果や意味を学び、再認識したことで、先人の知恵を活かした取り組みが、住環境という環境へ与える影響などがあらためて注目されるようになったと思います。

また、町内にある高森北小学校では、この春に古く使いにくかった家庭科室を町単独事業でエコ改修しました。この取り組みは、北小学校の先生方が検討会に参加し、現代の教育に適した空間として改修された先進事例の見学に行ったことから始まりました。本事業の目的のひとつである教育空間の改修、地域への開放まで含めた学校の使い方や間取りのこと、太陽の明るさを利用するための工夫といったエコについてなど、検討会での学んだことを活かしながら先生方とたくさんの方の議論を重ねて実現することができたと思っています。

こういった取り組みは、多くの皆様との議論を深めていくことから始まります。上からの押し付けではうまくいきません。住民の皆様が自ら気づき、実践してみようと思う住民参加の取り組みが必要だと思います。今回の事業では、その取り組みのひとつがエコ改修検討会であったと思います。

改修工事と併せて、環境教育もこれから進んでいきます。子どもたちや町民の皆様への心の中に蒔かれた種は必ず大きく花開くと願っています。